



関東エコ・ネット推進協議会

委員のみなさん

からの

メッセージ

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会では、3つの部会をはじめ、たくさんの委員が協働して取組みを進めています。ここでは、一部の委員から本日のシンポジウムに寄せられたメッセージをご紹介します。

コウノトリの野生復帰には2000年から関わってきました。そのころは、野生復帰に半信半疑であったり、反対する人も多かったと思いますが、2005年の兵庫県豊岡で始まった放鳥をきっかけに、ファンが増えてきました。

いまや関東や韓国を含めて各地で野生復帰が始まり、定着する個体も増えてきました。おそらく10年後には関東でもふつうに空を舞う姿がみられるでしょう。

コウノトリやトキたちの絶滅によって失われた未来を取り戻すために、この挑戦はまだ続きます。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 副会長
コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会 部会長
日本獣医生命科学大学 教授 羽山 伸一

1980年の埼玉県こども動物自然公園の開園からしばらくして、国際ツル財団のアーチボルト氏が園内を視察に訪れました。彼は、「埼玉の空にコウノトリを戻そう。」と当時の状況ではまさに夢のような構想を当時の園長と私にたきつけました。中国産のコウノトリを入手し施設も作ってはみたものの当初は失敗続きの日々でした。

あれから40数年、関東地方でもコウノトリが野外で繁殖し、動物園でしか見ることができなかった姿が自然環境の中で見るできるようになりました、多くの人たちの熱意の賜物です。次の10年が楽しみです。

コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会 副部会長
那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー
日橋 一昭

2020年には、渡良瀬遊水地で、コウノトリが野外繁殖を始めました。関東エコネットの成果であると思います。

これからのコウノトリ・トキの生息環境整備には、流域治水プロジェクトと関東エコネットの一体的推進が、極めて重要です。

「利根川・江戸川流域治水プロジェクト」では、ロードマップの中に、「エコロジカル・ネットワークの推進（コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり）（植生再生、湿地の再生）」が位置づけられています。堤外地での取り組みと、堤内地での取り組みを上手く連動させていくことが、ますます必要です。

コウノトリ生息環境整備・推進専門部会 副部会長
作新学院大学女子短期大学部 名誉教授
青木 章彦

河川は、これまで地域づくりの礎となってきました。河川によって、文化や伝統が生まれ、地域ならではのアイデンティティがつけられてきました。そのことが、今、忘れられつつあります。

関東エコ・ネット推進協議会は、地域づくりにおける川の重要性を見つめ直し、流域治水や自然再生など、これからの地域のあり方を若い世代を含め、地域のそれぞれの立場の者が顔を突き合わせて議論する場を提供しています。これは、地域の様々な問題を解決していくうえで重要なことであり、これからの10年、持続可能な関東地域を新たに形づくる「要」になると考えます。

コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会 部会長
埼玉大学 名誉教授 浅枝 隆

10周年、おめでとうございます。関東エコ・ネット推進協議会は、河川を基軸に、産官学民の様々な関係者が力を合わせて守り育てた「自然」を「地域の賑わい」につなげるという画期的な組織です。また、この協議会は、全国に先駆けて立ち上げられ、今や、全国各地の取り組みを牽引する組織でもあると思っています。

関東地域では、思った以上に早くコウノトリが定着し始めました。次はトキです。コウノトリとトキが同時に見ることができる地域は、まだ全国にありません。自然と共生する地域の賑わいにむけて、これからの10年が楽しみです。

コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会 副部会長
(公財)埼玉県生態系保護協会 専務理事 堂本 泰章



渡良瀬遊水地の
周囲堤脇の排水路で
採餌するコウノトリ

関東エコロジカル・ネットワークが10周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

鴻巣市では、「人にも生きものにもやさしいコウノトリの里こうのす」の実現に向け様々な取組を続けており、令和3年度にコウノトリのつがいの飼育を開始し、令和5年度には国のSDGs未来都市として選定されました。

今後は、待望のヒナの誕生・放鳥を目指し、本協議会の皆様との連携・協働のもと、生物多様性保全への取組に、一層力を入れてまいります。



関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
埼玉県・鴻巣市長 並木 正年



紅葉の候、貴会におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

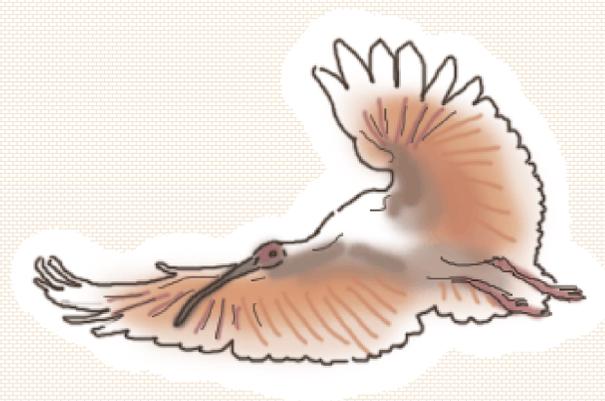
また、創立10周年を迎えられこと心よりお祝い申し上げます。関東におけるエコロジカル・ネットワークの形成として、コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりが推進されたこと大変喜ばしく思っております。これからも各自治体の皆さまと連携させていただき、地域振興・経済活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

長きにわたり環境保全活動に貢献されてきた貴会の功績を讃えるとともに、益々のご隆盛をご祈念しております。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
千葉県・我孫子市長 星野 順一郎

コウノトリ、トキの再来は子どもたちの未来への道しるべ

日本列島のほぼ中央に位置する関東は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の移行帯にあたり、南北の動植物が会う世界的にもきわめて生物多様性豊かな地域です。そのような関東でのコウノトリやトキの再来は、夢ではなく現実にするのが、子どもたちの未来への私たちの責務です。「鴫田（トキタ）」姓の多い房総半島では、地域の活性を目指し「亀山をトキの里にする会」が誕生し活動をはじめました。私も、その夢の道しるべを応援したいと思えます。



関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会 委員
放送大学 客員教授 中村 俊彦



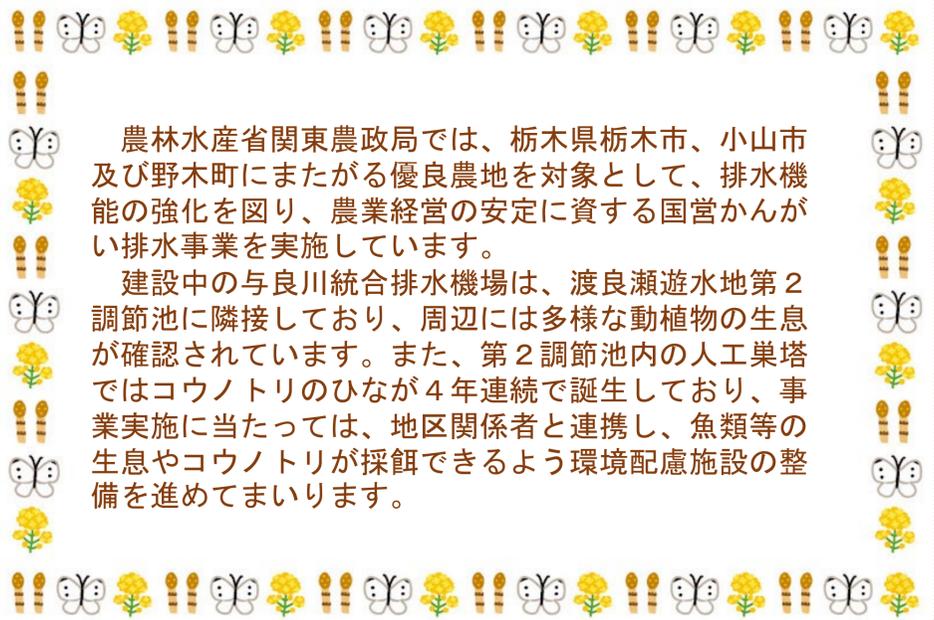
関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会設立10周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

私は、野田市の放鳥が開始された頃に委員をお受けしました。現在では、栃木県小山市、茨城県神栖市、行方市で野外繁殖に成功し、当時思い描いたことが現実となりました。関東での野外繁殖の成功は、貴協議会の役割が大きいと考えます。

貴協議会の益々のご発展をお祈りいたします。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会 委員
兵庫県立コウノトリの郷公園 主任飼育員
船越 稔

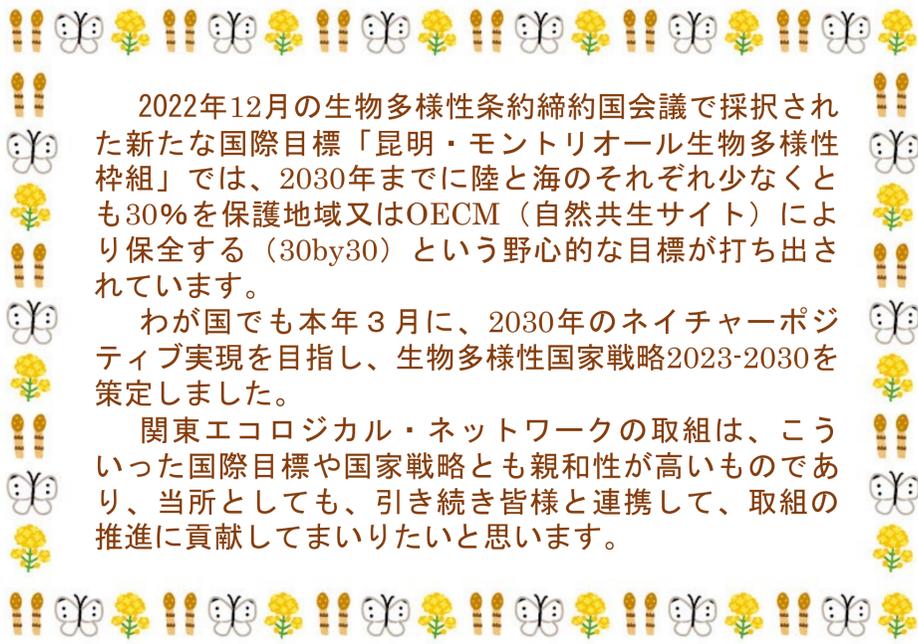
コウノトリ（ひかる）と与良川統合排水機場



農林水産省関東農政局では、栃木県栃木市、小山市及び野木町にまたがる優良農地を対象として、排水機能の強化を図り、農業経営の安定に資する国営かんがい排水事業を実施しています。

建設中の与良川統合排水機場は、渡良瀬遊水地第2調節池に隣接しており、周辺には多様な動植物の生息が確認されています。また、第2調節池内の人工巣塔ではコウノトリのひなが4年連続で誕生しており、事業実施に当たっては、地区関係者と連携し、魚類等の生息やコウノトリが採餌できるよう環境配慮施設の整備を進めてまいります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
関東農政局農村振興部長 香山 泰久

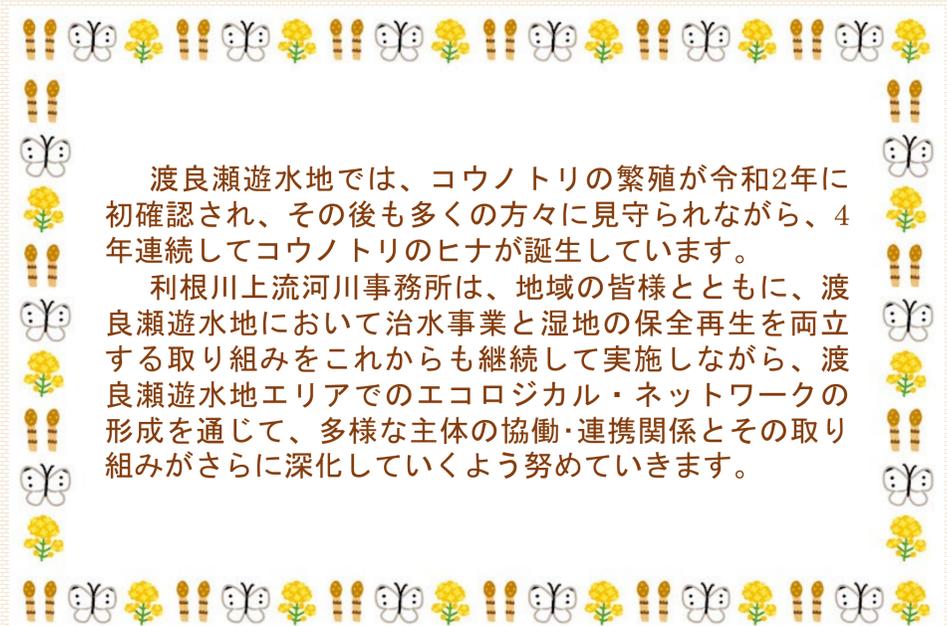


2022年12月の生物多様性条約締約国会議で採択された新たな国際目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年までに陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域又はOECM（自然共生サイト）により保全する（30by30）という野心的な目標が打ち出されています。

わが国でも本年3月に、2030年のネイチャーポジティブ実現を目指し、生物多様性国家戦略2023-2030を策定しました。

関東エコロジカル・ネットワークの取組は、こういった国際目標や国家戦略とも親和性が高いものであり、当所としても、引き続き皆様と連携して、取組の推進に貢献してまいりたいと思います。

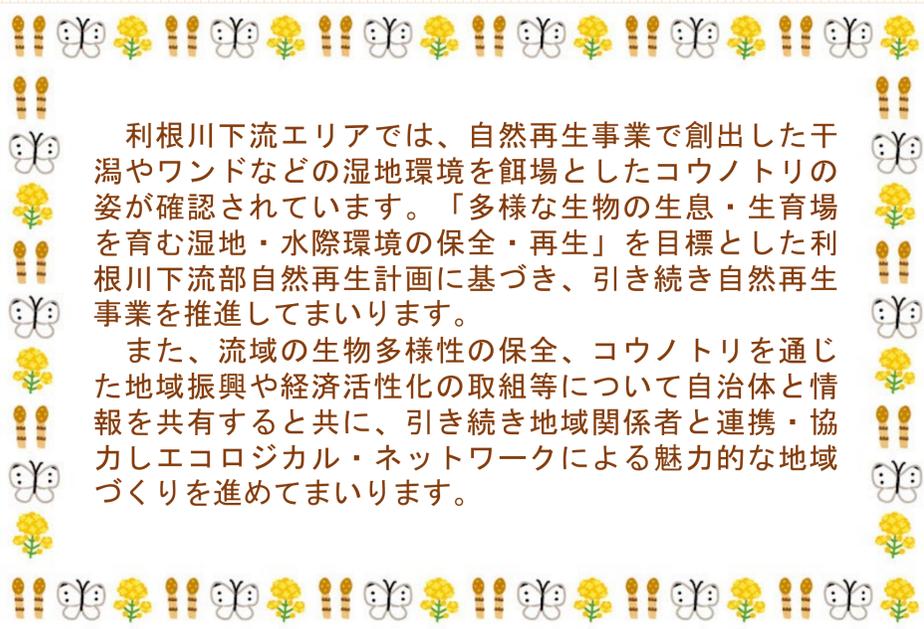
関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
関東地方環境事務所 次長 中島 治美



渡良瀬遊水地では、コウノトリの繁殖が令和2年に初確認され、その後も多くの方々に見守られながら、4年連続してコウノトリのヒナが誕生しています。

利根川上流河川事務所は、地域の皆様とともに、渡良瀬遊水地において治水事業と湿地の保全再生を両立する取り組みをこれからも継続して実施しながら、渡良瀬遊水地エリアでのエコロジカル・ネットワークの形成を通じて、多様な主体の協働・連携関係とその取り組みがさらに深化していくよう努めていきます。

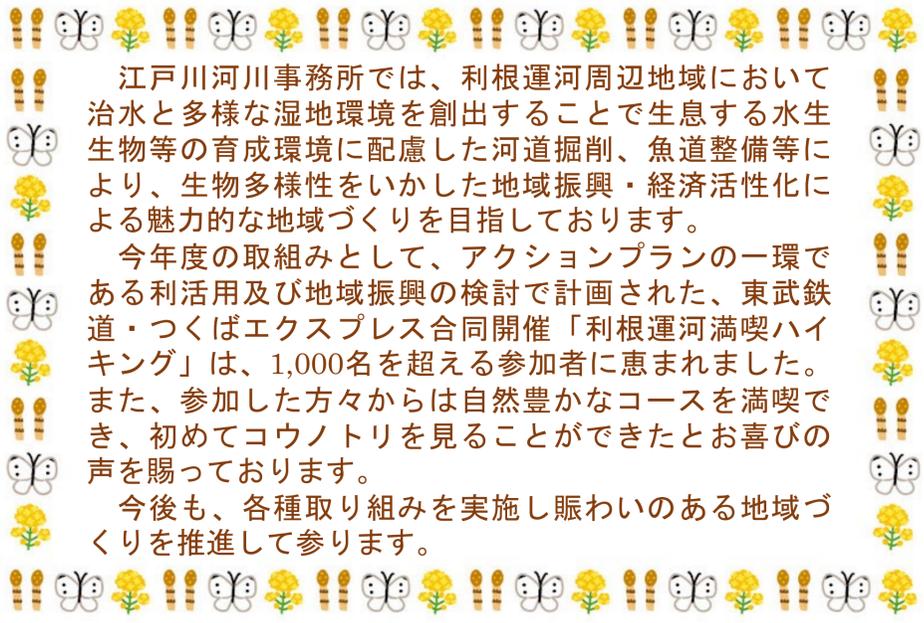
関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
利根川上流河川事務所長 津森 貴行



利根川下流エリアでは、自然再生事業で創出した干潟やワンドなどの湿地環境を餌場としたコウノトリの姿が確認されています。「多様な生物の生息・生育場を育む湿地・水際環境の保全・再生」を目標とした利根川下流部自然再生計画に基づき、引き続き自然再生事業を推進してまいります。

また、流域の生物多様性の保全、コウノトリを通じた地域振興や経済活性化の取組等について自治体と情報を共有すると共に、引き続き地域関係者と連携・協力しエコロジカル・ネットワークによる魅力的な地域づくりを進めてまいります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
利根川下流河川事務所長 小淵 康正

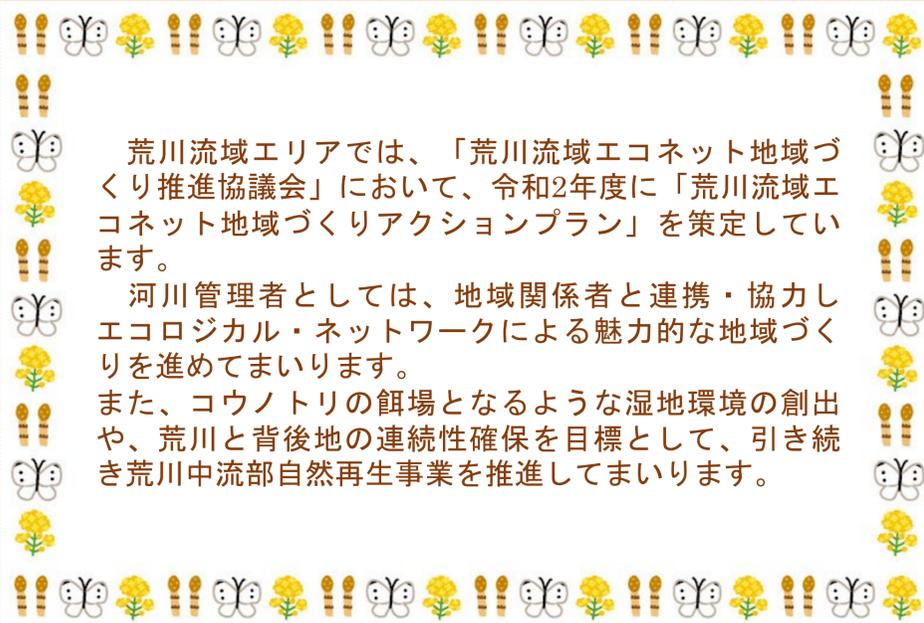


江戸川河川事務所では、利根運河周辺地域において治水と多様な湿地環境を創出することで生息する水生生物等の育成環境に配慮した河道掘削、魚道整備等により、生物多様性をいかした地域振興・経済活性化による魅力的な地域づくりを目指しております。

今年度の取組みとして、アクションプランの一環である利活用及び地域振興の検討で計画された、東武鉄道・つくばエクスプレス合同開催「利根運河満喫ハイキング」は、1,000名を超える参加者に恵まれました。また、参加した方々からは自然豊かなコースを満喫でき、初めてコウノトリを見ることができたとお喜びの声を賜っております。

今後も、各種取り組みを実施し賑わいのある地域づくりを推進して参ります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
江戸川河川事務所所長 守安 邦弘



荒川流域エリアでは、「荒川流域エコネット地域づくり推進協議会」において、令和2年度に「荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン」を策定しています。

河川管理者としては、地域関係者と連携・協力しエコロジカル・ネットワークによる魅力的な地域づくりを進めてまいります。

また、コウノトリの餌場となるような湿地環境の創出や、荒川と背後地の連続性確保を目標として、引き続き荒川中流部自然再生事業を推進してまいります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
荒川上流河川事務所長 村田 啓之





関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会設立10周年おめでとうございます。

この10年の活動により、様々な主体の連携・協働によって、環境の保全と地域振興・経済活性化との両立を目指す取組が着実に広がってきたことに手ごたえを感じております。

本県では森林や河川環境の保全、野生鳥獣の適正な保護管理、特定外来生物対策、希少野生動植物種の保護等により自然の損失を止め回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの実現に取り組んでいます。

今後も、こうした取組の更なる推進を通じ、本協議会が目指すコウノトリ・トキが舞う地域づくりの実現に貢献してまいります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
埼玉県環境部長 細野 正



関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウムの開催おめでとうございます。

本協議会の創設により、多様な機関の連携による環境保全の取組が進んでまいりました。

埼玉県農林部では、農業用水に係る水辺環境の整備や、地域住民による農村の多面的機能の維持・発揮を推進する取組を支援しています。

こうした環境保全の取組を通じ、本協議会が目指すコウノトリ・トキが舞う魅力的な地域づくりに今後も協力していきます。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
埼玉県農林部長 横塚 正一

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会設立10周年、誠におめでとうございます。

本県では、河川が本来保有している多様な生物の成育環境や河川景観を保全・創出する川づくりを目指しています。加えて、県民や企業等と協働した河川の美化活動にも力を入れております。

今後も、河川及び周辺地域における河川環境の保全・再生の取り組みを通じて、本協議会が目指すコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりに努めてまいります。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会 委員
埼玉県県土整備部長 金子 勉

